

会議録（要点録）

会 議 名	第5回 第4次八王子市教育振興基本計画策定検討会	
日 時	令和6年10月25日(金)午後7時00分～8時30分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 801会議室	
出席者氏名	参 加 者	◎川島弘嗣、増田正弘、三浦壮次、中村八重、佐藤ますみ、櫻井励造、矢ヶ崎由香、小室裕美 ◎：座長 ○：副座長
	教育委員会事務局職員	長井優治 教育総務課長、狩野貴紀 統括指導主事、福島裕子 統括指導主事
	事 務 局	三枝信博 教育総務課主査
欠 席 者 氏 名	大宝院清孝、小林七海、志村亮介 統括指導主事、田島裕子 生涯学習政策課長	
次 第	1 開会 2 議題 第4次八王子市教育振興基本計画（素案）について 3 その他 4 閉会	
公開・非公開の別	公開	
傍 聴 人 数	なし	
配 付 資 料 名	・次第 ・資料1 第4次八王子市教育振興基本計画(素案) ・参考資料 策定検討会意見等反映状況一覧	

	会議の内容
事務局	1 開会 2 議題 第4次八王子市教育振興基本計画(素案)について 「資料1」について説明。
座長	各施策について、御意見等をいただきたい。
参加者	「第4次八王子市教育振興基本計画(素案)」の資料は教育委員の方々もご覧になったと思うが、どのような評価をいただいているのか。
事務局	10月16日に開催された教育委員会定例会で素案を説明した際に、国の計画にある「持続可能な社会の創り手の育成」について、第4次計画にも取り入れられないか、という話があった。「持続可能な社会の創り手の育成」については、学習指導要領にも掲載されているので、どこかに盛り込めるよう、検討していきたいと考えている。
参加者	学習指導要領の前文に、「持続可能な社会の創り手」というのがキーワードになってい

	て、そこから社会に開かれた教育課程やそれを実現するためのカリキュラムマネジメントだとか、その部分が一番の大きな柱になるのではないかなと感じている。おそらく教育委員の方々は現場の先生に対して、そのようなところを意識してもらいたいのかなというように気がする。このようなことが第4次計画の中でも施策13「主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」や施策14「グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」で触れられてはいるが、学習指導要領の前文に書かれていることを考えると「もう少し大きな部分で、それを入れてもらいたい」というのが教育委員の方々の考えなのかなと思う。この体裁は良くできていると思うので、積み上げてきたものを白紙に戻して一から作り直すことは難しい事だと感じている。13ページの第2節にある「めざす教育の姿 1 はちおうじっ子の「生きる力の育成」」の後に続く文章で、「子どもたちが自分の「みち」を見つける力と、その「みち」に挑戦する力を身に付け」の後に「持続可能な社会の創り手としてこれからの社会を担っていくための「生きる力」を育成します」と表記したらどうか。これだと唐突感を感じると思うので、4ページの「第4節 持続可能な開発目標(SDGs)との関わり」の中にその素案を取り入れると文章的にも反映しやすいと思う。第1回策定検討会において話をさせていただいたが、施策13「主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」で、キャリア教育だけで良いのかという思いがあり、施策に少し弱さを感じる。シチズンシップ教育のような要素が入っているとマッチすると思う。
事務局	施策13「主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」の「現状と課題」の一行目にあるように、先ほどご意見をいただいた「持続可能な社会の創り手」について触れてはいるが、大きなコンセプトのテーマとなっているので、検討していきたい。
参加者	施策13「主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」のキャリア教育の実施のところで、「施策の方向」の3つ目に、「キャリア教育を実施します」とある。キャリア教育は大事なことだとは思いますが、キャリア教育の前に、心の在り方や、キャリア教育を通してその仕事はどう社会とつながっているのかが大切だと感じている。その仕事をしている人たちが「こんなに大人は楽しい世界を生きているんだよ」というようなわくわく感や、自己肯定感も上がるようなキャリア教育があると良いなと思っている。例えば、職場体験で、子どもたちが「こういう仕事なんだな」、と感じるだけではなく、その奥にある人間のすばらしさが分かるようなものが教育とセットにならないだろうか。ある小学校の体験授業に参加してきたが、警視庁の方や、臨床心理士の方や色々な方がいて、「自己理解とは、他者理解とは」という授業を行っていた。その職業に至るまでに、まだ自分の将来像が見えていない子どもたちに対して色々なアプローチがあると思った。キャリア教育の可能性と自己肯定感も上げ、はちおうじっ子として自信を持って社会につながる、地域とつながるということを盛り込んでも良いと思った。
座長	本日、欠席している大宝院副座長からご意見をいただいているので代弁する。
副座長	施策17「学校だけでは解決が困難な問題に対する支援」の「主な取組」にあるチーム学校についてだが、直接対応できるスクールロイヤーの設置の検討を追加することはできな

	いだろうか。現在のアドバイスをいただくだけでも心強いが、やはり学校からは直接伝えられないことが多くあり対応が長期化することがある。また、法的な側面や客観的な視点、これまでの判例等、弁護士の方が直接保護者の方とお話しをしていただくことで、保護者の方の辛い思いを続ける時間を減らすことができる。それは必ず子どもにとっても、大切な支援となる。対応する案件の条件は、ある程度厳しくしても良いので、検討をしてほしい。
参加者	総論のところで、第3次計画には「今日の教育を取り巻く状況と今後の重要課題」というサマリー的なものがある、現在の日本や八王子の状況が分かりやすく各論に入っていきやすかった。
参加者	どういう課題があって、そのアンサーが計画そのものだと思っている。問いが無く答えだけが示されていることに物足りなさを感じる。
参加者	79ページにある指標について、目標が、「毎年度、前年度を上回る」ということに違和感がある。例えば、「1 はちおうじっ子の「生きる力」の育成」にある「習得目標問題の定着率」の小学生の回答は既に97%で、「相談できる大人が1人以上いると回答した児童・生徒の割合」の小学生の回答は99.4%とある。100%をめざすという書きの方が良いのかなと思う。
事務局	100%をめざすことは前提ではあるが、何%なら達成と設定できないものがあることから、この目標としている。
座長	79ページの指標について、「2 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」にある「地域と居場所があると感じている子どもの割合」の回答だと、現状が88.6%から目標が89.8%となっている。この目標数値の88.9%はどういう数値なのかと違和感があり、90%に設定しても良いのではないか。「あらゆる人がともに学びあう生涯学習の振興」にある「生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合」の回答だと、現状が6.8%から目標から35.0%とあり、「1年間のうちに伝統行事に参加したことのある市民の割合」の回答だと、現状が25.8%から目標が50.0%とある。めざすことは良いことだと思うが、目標には根拠があった方が良いと思う。
事務局	こちらの計画は、上位計画にある市の基本構想・基本計画に合わせて作成している。
参加者	施策14「グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」について「主な取組」の一番下に、「SNS によるネットトラブルの未然防止や適正なインターネット利用の推進を図る学習機会の設定」とあるが、この内容には闇バイトも意識されているのか。
事務局	闇バイトについては喫緊の課題だと思っている。本市としては闇バイトに関するクイズを今後小中学生に対して、取り組んでいこうと考えている。現在 SNS のネットトラブルについては、いじめに特化した部分になっている。情報機器会社にも来ていただいて、SNS に関する取り組みなども行っていく中で、闇バイトについては今後の課題になっているので、取組も必要だと思っている。
参加者	高校生などもトラブルは多いがその原因として考えられるのは、金銭感覚や契約感覚が脆弱だからだと感じている。1日8時間働いて、1万円稼げたらいいところを、10万、15万と

	もらえたら「おかしい」という感覚になるはずだと思うが、そのような感覚がまだ養えていないから、危ない仕事に手を出してしまう。現在は、小学6年生なども携帯を持っていることが多いので、総合的に考えた取組があっても良いと感じている。
事務局	現在、SNS のネットトラブルと合わせて、セーフティ教室というものがあり、闇バイトはどちらかと言うとセーフティ教室の意味合いが強いと感じている。そちらについては、検討していく必要があると考えている。
参加者	施策17「学校だけでは解決が困難な問題に対する支援」について「施策の方向」の2つ目に「SNS を起因とするトラブル等を未然に防止するための取組を充実させていきます」とある。拡大解釈はしていないが、この先色々なことが発生することを見据えてもう少し分かりやすい表現があると思う。
座長	施策14「グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」の「主な取組」に「SNSによるネットトラブルの未然防止や適正なインターネット利用の推進を図る学習機会の設定」とあり、施策17「学校だけでは解決が困難な問題に対する支援」の「主な取組」に「SNS 運営会社と連携したメディアリテラシー教育の実施」とあるが、この2つの施策は混合されている気がするのでもう少し差別化したほうが分かりやすいと思う。先程、事務局からも説明があったように、セーフティ教室の意味合いが少し強いと個人的にも感じているのでアレンジをすると良いと思う。
参加者	施策 9「不登校児童・生徒への支援の充実」にある「現状と課題」の 3 つ目の文中に「平成25年度(2013 年度)を境に増加に転じました」と掲載されているが、各学校 15%くらいは不登校の児童・生徒が実際に居て、ある中学校の生徒数で換算すると30名近くの不登校の子どもが色々な形ではあるが存在している。不登校児童・生徒の支援の取組としての目標数字を出すことは難しいことではあると思うが、減少させるためにも具体化した数字があることで先生方も保護者側も少しずつ意識の仕方が変わるのではないかと感じている。例えば、「地域に居場所があると感じている子どもの割合」という指標が載っているのので、不登校児童・生徒の減少へ向けての指標があると、目標の達成に取り組む姿勢が変わってくるのではないかと思う。
事務局	こちらの指標は八王子未来デザイン 2040 の中で第4次計画に該当している部分を抜き出して作成している。先程、不登校に関する指標が掲載されていないというご意見をいただいたが、必ずしも指標がないとすすめられないという訳ではない。
事務局	令和5年度につながるプランを策定し、不登校総合対策をすすめている。このプランは、令和9年度までに5年間集中的に不登校対策に取り組んでいくという方向性を示しているものである。つながるプランには達成目標が2つあり、1つ目は学校内外で相談・指導を受けていない子どもたちを0名にするという達成目標である。令和4年度522名だった専門的な相談・指導を受けていない児童・生徒が令和5年度は333名ということで、暫定値ではあるが減少した。現在も色々な施策を展開している状況である。もう一つは、中学校卒業後に希望進路をもつ生徒の進路未決定者を0名にするという達成目標である。令和4

座長	年度の進路未決定者は3名だったが、昨年度は0名を達成した。これを令和9年度までに0名を継続していく目標を達成するよう取り組んでいる。 施策9「不登校児童・生徒への支援の充実」について、不登校の児童・生徒が卒業後も継続して必要な支援を受けることができる場合は「はちビバ」になると思っている。「はちビバ」を知っている人は良いが、実際に困っている人が「はちビバ」とのつながりがイメージできるような内容にできたら良いと思う。
参加者	12ページの「基本理念の想い」について、「障害のあるなしや性別、経済状況に関わらず」とあるが、ほかにも表現の仕方があると思う。例えば、外国にルーツを持つ方とか、そのようなところを考えると「障害のあるなしや性別、経済状況などに関わらず」と表記を一部変更した方が良いと感じた。 79ページの指標について、「はちおうじっ子の「生きる力」の育成」の部分で、体力の向上や感性、創造性の指標が何かないかと感じた。具体的に、感性の部分では、大学との連携や図書館についてなど、いろいろな取組があるのでその内容で指標を設定できないだろうか。体力の向上や感性、創造性の部分についても、はちおうじっ子として何か取組があっても良いと思った。いじめについては解消率など、そのあたりが指標の部分になると思う。 施策22「学校ICT環境の充実」について、SNSについてはメディアリテラシー教育もあるが、デジタルシチズンシップと大きく関わってくる部分なのかなと思う。そのあたりを意識した包括的な部分で、デジタルシチズンシップを捉えられるのではないかと感じた。 来年度の各小・中学校の教育課程の中にウェルビーイングについて盛り込まれているが、第4次計画にはウェルビーイングという文言が含まれていないことに違和感がある。
事務局	文部科学省が第4期教育振興基本計画の中に2つのコンセプトとして、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」と掲げている。この部分が来年度以降の教育課程に大きく関わる場所ではある。第4次計画は今後5年間の取組として、ウェルビーイングとして全ての子どもや、先生方にとって幸せを感じる社会を作っていくという目標があるので、この部分については何かの形で取り入れたいと思う。
座長	施策2「小中一貫教育の推進」について、第3回策定検討会の中で、いずみの森義務教育学校の成果についての話があったと思うが、その内容の反映はどうなったか。
事務局	第3回策定検討会でご意見いただいた部分の反映ができていなかったもので、第6回策定検討会までに修正をする。第二小学校、第四中学校の義務教育学校の効果検証について内容を検討していきたい。
座長	施策4「いじめ防止対策の推進」について、「主な取組」の一番下に「いじめ対応のポイントや市の取組を整理した保護者啓発資料「いじめ対応のポイントと本市の取組」の周知」とあるが、内容がこれだけだと寂しいように感じる。周知だけではなく、児童・生徒と保護者が共に取り組めるようなものがあったら更に良いと思う。 施策19「家庭教育支援活動の推進」について、少子化や核家族化により、「身近な人か

	ら子育てを学んだり助け合う機会が減少することで家庭での教育力の低下が懸念される」と分析しているが、このことと対になる「施策の方法」と「主な取組」がリンクしてないと感じる。「主な取組」にある、リーフレットの活用や茶話会、ファシリテーター養成講座は、第4回策定検討会から内容に変化が見られないので、もう少し内容を追記できないか検討してほしい。 施策20「放課後の子どもの居場所づくり」について「主な取組」にある「朝の子ども教室の実施」は実際に実施できる取組なのか。数校は実施できると思うが、第4次計画に掲載すると全校で実施するようになってしまう。 施策26「誰もが学べる環境の整備」について「施策の方向」の一番下に「多様化する図書館ニーズに対応するため、時間や場所にとらわれない、利用者目線での読書環境の整備を図ります」とある。この施策の「主な取組」について、憩いのライブラリーはそこに行ける人、パークライブラリーはイベントであって、「時間や場所にとらわれない」についての取組の「DXの推進」という解釈が少し残念に感じた。DXは、確かに時間と場所に囚われないけれど、私の想いとは違う。パークライブラリーも実際行っている場所は長池公園だけである。この内容を全市の取組とすることに違和感がある。 施策30「スポーツによる地域の活性化・魅力発信」について「施策の方向」の一番目に「総合型地域スポーツクラブの支援をすすめます」とある。この施策の「主な取組」について、開催支援をするのは良いと思うが、どのように支援をすすめていくのかイメージが湧かない。もう少しイメージが湧きやすい、例のようなものを示す良いと思うが、市教育委員会としてどのような支援ができるか。現在、総合型地域スポーツクラブは、伸びている状態ではなく、だんだん萎んでいる状態のように感じる。それをどうにかしなければならない状況だと思う。
参加者	施策8「特別支援教育の充実」の主な取組について、「都立の特別支援学校との連携」というような取組が見当たらない。実際には、連携をしている取組があると思うが、反映することはできないか。
事務局	施策14「グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」について「施策の方向」の1つ目の「主な取組」に「小学校への留学生派遣事業の拡充」とあるが、中学生は対象外なのか。中学校への派遣も検討してほしい。
参加者	現在留学生がかなり少ないため、なかなかすべての小学校にも派遣ができていない状況ではあるが、少しずつ大学と連携しながら大学数を増やしていけば可能になると思う。
参加者	学校としてもそのような取組をしていきたいと考えているので、今後5年間で中学校目線でも考えてほしい。
参加者	施策17「学校だけでは解決が困難な問題に対する支援」について「主な取組」に「スクールロイヤーとの連携強化」とあるが、できればスクールロイヤーに持ち込む前の段階でどうにかしたいというのが本当の願いだと思う。スクールロイヤーに持ち込まない状況にする

	にはどうしたら良いのかということ地域の方とも一緒に考えていきたい。例えば、保護者の方が、学校の先生の話は耳に入らなくても、もしかしたら地域の方の言葉は耳に入るかもしれない。耳に入る方との繋がりを知っているのは、地域の方かもしれないということを見ると、もう少し学校教育の中に地域の方の意見を聞く場所を盛り込み、繋がりを持つ保護者同士が話をできるような環境が整っていれば、学校と対立関係になるのではなく、問題に対して共に考えられるような形が作っていけるのではないかと思います。 79ページの指標について、一人ひとりが前年度よりもどれくらい成長したとか、苦手を克服したとか、一人ひとりの到達度が見られる施策がどこにあるのかが見当たらない。全体として八王子市の総合力を上げるというのは大体わかるが、一人ひとりがどのように成長しているのかを見てあげたいと思うので、どこに盛り込めばいいのかというのは明確ではないが、「1人の児童・生徒を学校全体で見えています」というのをどこかに盛り込みたいと感じた。
座長	スクールロイヤーの内容についてだが、スクールロイヤーの前の段階は、おそらくスクールソーシャルワーカーだと思う。イメージがスクールソーシャルワーカーとスクールロイヤーのギャップが大きくなっていると思うのでスクールソーシャルワーカーとスクールロイヤーとがなだらかに繋がるような取組ができたら良いと思う。
参加者	スクールロイヤーやスクールソーシャルワーカーの絶対的な人数が少ないとなると、1週間に1度しか学校に来ない方に対して、どこまで一緒にチームの一員として問題を考えていただけるのかと感じてしまう。現状は、スクールソーシャルワーカーの存在が一助になっているかという点と難しいのではないかと思います。
事務局	79ページの指標にある「給食への八王子産野菜の使用率」とある。これは、無農薬であるとか、有機野菜であるとか、そういったものへの取組は考えているのか。
参加者	ある程度そのあたりは配慮をする方向で考えていると思うが、なかなかそこまで踏み出すのに明確に示しづらい。
参加者	施策26「誰もが学べる環境の整備」の「主な取組」に「図書館サービスにおける DX の推進」のところで「DX」という文言を使っているが、DX と表現すると何かものすごいことをしないとイケなくなるように感じる。例えば、ビッグデータを使うとか、IoT とか AI とか、そういったところをめざしていないのであれば、安易に DX を使わないほうが良いと思う。例えば「充実したシステム化を実現していく」とか、「IT化を推進していく」という表現の方があまり誤解を生まないと思うので検討してほしい。社会福祉審議会の方では、例えば、教育や保育など他部署との情報連携の部分で「DX 推進していく」という表現があったので、そういった意味で使うのは良いと思うが、図書館サービスに特化したものだけで DX と表記するのは違うのかなと思うので、表現をもう少し緩めた方が良いと思う。
参加者	読書の機会を増やしたいということで「読書のまち八王子」と掲げていたが、もう期間が終了したのか。かなり浸透していた印象があったが「読書のまち八王子」という文言が、どの施策にも入っていない。子どもたちの読書離れは大きくなっているが「読書のまち八王子」

	はインパクトがあったので、施策26「誰もが学べる環境の整備」に取り入れるなど検討してほしい。
参加者	施策15「持続可能な部活動の推進」について、これからの部活動は、地域の方に指導員をお願いするなど、地域との連携をすすめていくことになると思うが、実際は各学校が自分で指導員を探してこななければならない状況が続くことを考えると限界があると思う。部活動版の人材バンクのような体制を整えることができないか。
事務局	部活動の指導者にどのような人材が来てほしい、もしくは地域に指導できる人材がいるといった情報を集められるように準備が必要だと思っているのでどの部分に盛り込んでいくかは検討する。
参加者	施策24「学校の組織力向上」について、「現状と課題」の6番目に「信頼される学校経営をめざして、校長がリーダーシップを発揮し」とあるが、校長判断というのが八王子市は多いと感じる。八王子市は、地域性があることから、それぞれ違いが生まれてしまうのは仕方がない事だと思うが、そのような状況になると校長先生の負担は大きいと思う。校長先生には、リーダーシップは発揮してほしいが、校長先生を周りで支えるというようなニュアンスを盛り込んでほしい。地域としては少しでも校長先生の負担が軽くなればと思っています。
座長	3 その他 次回の開催予定を事務局からお願いする。
事務局	次回の日程は11月26日(火)、場所は市役所本庁舎8階 801 会議室。時間は午後7時からを予定している。
座長	次回の開催通知、会議資料については、後日、電子メールにてお送りする。 では、本日はこれにて閉会とする。 4 閉会